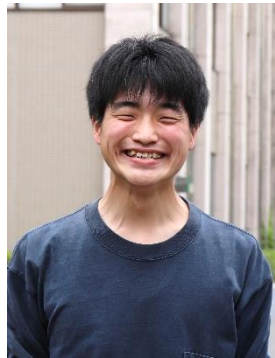




～卒業生からメッセージ（公務員保育士）～

私は現在、千葉市の公立保育所で保育士として働いています。保育士としてまだ 4 ヶ月目と日が浅く、現在日々奮闘中です。保育者として子ども達と関わった際に、自身の関わり方や働きかけによって子ども達が笑顔になると、保育士になって良かったとやりがいを感じます。子ども達と関わる際は大学で学んだ知識を活かすことはもちろん、その関わる子どもがどのようなことに興味があるのかなどを理解して関わるよう心掛けています。これから保育士を目指す後輩のみなさん、いま大学で学んでいる講義は将来子ども達と関わる際に大いに役立ちます。実際に子ども達と関わる際は子どもの姿をよく見て、その子どもの目線に合わせ関わってみて下さい。子どもに寄り添うことで多くの笑顔を引き出すことができると思います。



大学 発達教育学部 発達支援教育学科 10 期生 飯島和希
千葉県立千葉北高等学校出身

～教育実習報告～

私は 4 週間、母校である小学校で教育実習をさせていただきました。4 週間の実習期間中、毎日が学ぶことばかりでした。その中でも印象深かったことは、子どもたち一人ひとりに対する先生の姿でした。子どもたちに合わせた声かけや説明の様子を見て、授業以外での子供たちとの関わり方の大切さを実感しました。実習中は、子どもたちとの関係を深めるために、積極的に行動するように努めました。短い期間でしたが、生徒との信頼関係を少しではありますが、築くことができたのではないかと思います。4 週間の実習期間で実習前より自分自身とても成長することができたと感じました。実習を受け入れてくださった先生方、そして何よりも子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。将来目標とする、子どもの気持ちや行動に寄り添い共に成長できる教員へなれるよう、これからの大学生活も頑張っていきたいです。



大学 発達教育学部 発達支援教育学科 3 年 小林和史
千葉県立翔凛高等学校出身



～教員採用 一次試験報告～

教員採用の一次試験に臨んだ 4 年生から、体験を通しての学びを後輩に伝える報告会を行いました。

「教採報告」から学んだことは、練習をたくさんすることによって自信をつけ、気持ちに余裕を持った状態で望むことが大切になるということです。先輩方は、3 年生の頃から集団討論の練習や試験勉強をしていたからこそ今回の採用試験で落ち着いて受けることができたのだと感じました。また活かしていきたいことは、『出やすい問題は把握しておくことが大切』ということです。試験勉強として過去問を解く際には、どのような問題が出やすいかや去年はこの問題が出たから今年はこの問題が出るだろうなどの予測を立てながら勉強していきたいと思います。



大学 発達教育学部 発達支援教育学科 3 年 平野藍里
千葉県立木更津東高等学校出身

「教採報告」から、試験の流れやその場での動き方、また、試験に向けての事前準備の大切さを学ばせていただきました。試験会場での動き方は、お話を聞いて初めて知ることが多く、注意事項や他の受験者との交流の仕方を学ぶことができました。また、集団面接の時に、想像していなかった状況になった場合でも、今まで話してきた内容や言語を知っていれば話を繋げることができるというお話を聞いて、どんな状況になるか予測しながらの事前準備がとても大切になると実感しました。これから活かしていきたいことは、先輩方のように余裕を持って、試験に臨めるよう、常日頃から言葉遣いや態度、気配りを意識して行動していくことです。私は本番になると緊張で頭が真っ白になることが多いので、小さなことでも当たり前のように意識付けて行くことを大切にしたいと思いました。また、出る問題は予測して臨むことが大切というお話を聞いたので、過去問を解く時にも、集団面接のお題を考える時にも、過去問等を活用し、広い視野から予測をして事前準備を行いたいと思いました。



大学 発達教育学部 発達支援教育学科 3 年 廣重伶果
千葉県立木更津総合高等学校出身